

## 巣箱設置におけるカラ類等の長期的センサス

名城大学農学部 野生動物生態研究会

### 背景

近年の気候変動により、鳥類の繁殖時期は年々早まっていると言われています。イギリスではシジュウカラ（Parus major）の産卵開始日が1971～1997年の27年間に約11日間早くなった<sup>(2)</sup>（McCleery, R.H. and C. M. Perrins (1988) Temperature and egg laying trends. Nature, 391, 30-31.）巣箱設置による長期的なセンサスはこの気候変動に対する応答が調べられるうえでとても重要であります。日本ではまだあまり調べられていません。

### 目的

シジュウカラを始めとした、カラ類や林内の小型鳥類の繁殖生態を継続的に調査し、データを積み重ねることを目的とします。

### 対象動物

シジュウカラ、ヤマガラ、キビタキ

### 調査方法

林内に、15m間隔に巣箱を100個程度掛け、営巣した巣箱から、自動撮影カメラを設置し繁殖生態をセンサスします。巣箱は特殊な形状な物を作成予定で、シジュウカラとキビタキがどちらも入れる巣箱になっています(写真1)。また背面が開くようになっており、営巣した巣箱から開いてカメラを設置します(写真2)。足環による個体識別も行う予定です。



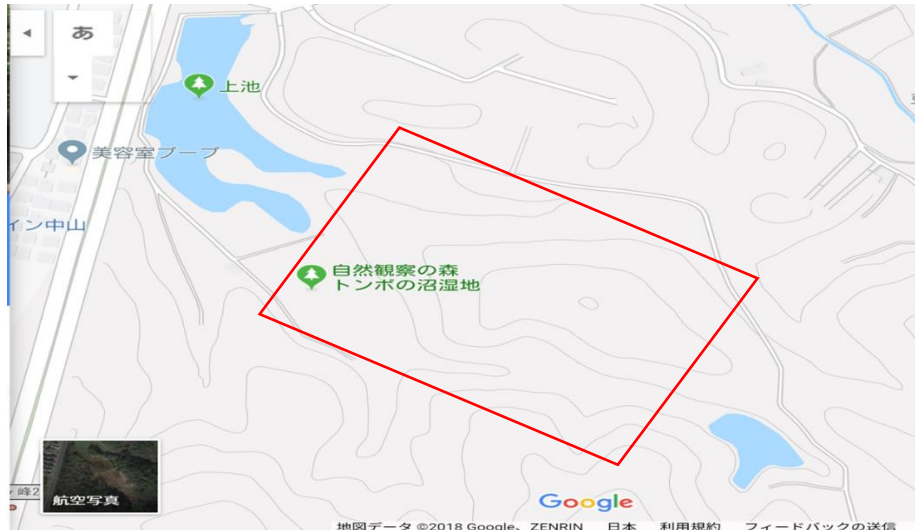
写真1



写真2

## 調査地

豊田市自然観察の森 名城大学農学部実習地（住所：愛知県豊田市市木町南山）



## 期待される成果

産卵数、雛の成長、巣立ち率、営巣時期などのデータを長期的に積み重ねていけば日本における小型鳥類の気候変動に対する応答が解明できるかもしれません。また、シジュウカラとキビタキが両方入ることができる巣箱を設置することにより、ヒタキ類とカラ類の巣穴をめぐる競争が調べられるかもしれません。

## 支援いただきたいもの

- ・ 巣箱材料費
- ・ 自動撮影カメラなどの費用支援
- ・ 交通費

## 引用文献

- (1) 小池重人・樋口広芳. 2006. 気候変動が同一地域の鳥類、昆虫、植物の生物季節に与える影響. 地球環境 Vol.11 No.1 27-34.
- (2) McCleery, R.H. and C. M. Perrins (1988) Temperature and egg laying trends. Nature, 391, 30-31.